

【基礎情報】

- 位置 けせんぬまし たいわちよう しちかしゆくまち
宮城県気仙沼市、大和町、七ヶ宿町



○主な対象獣種

- シカ
- イノシシ
- ニホンザル

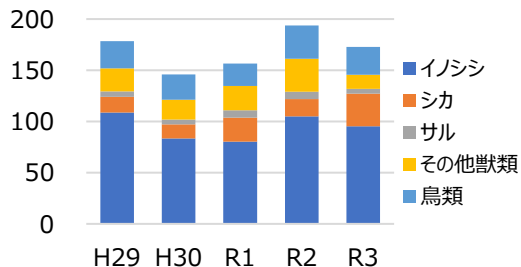
○活用した技術

- GIS (QGIS)
- GPS (動物位置情報システム ANIMALMAP)
- センサーカメラ (トローフィーカム)
- ICTわな (ほかパト)

○地域の状況

シカ等の生息域が拡大している一方、捕獲従事者の高齢化に対応するため、効果的、効率的な対策を実施する必要。

(百万円) 獣種別被害額 (宮城県)



【取組内容】

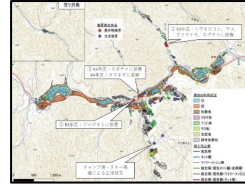
Plan : 計画

生息・被害状況等の調査結果をGISを活用して可視化し、それを基に、被害対策を計画。

- ヒアリングに当たっては、農地の利用状況、柵の設置状況、被害発生状況を調査
- 調査結果を可視化し、対策の脆弱部に対する対応の提案



ヒアリング調査



状況の可視化

Action : 改善

柵の正しい設置方法等の理解醸成のため、啓発パンフレットを作成、配布し、取組の活性化へつなげる。



啓発パンフレットの作成



住民による維持管理

Do : 実行

ICT捕獲機器等を用いた効率的な対策の実施。



捕獲個体へのGPS首輪装着

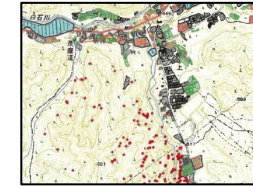


データを踏まえわなの設置

Check : 点検

GIS上に情報を集約し、効果検証及び課題の整理。

- 捕獲場所、GPS測位位置等のデータを更新し、現地の実態を地図に反映することの重要性を確認
- 追い払いのルートや捕獲場所を立案するなど、効果的な対策を検討することができた



追跡調査の反映



補修により侵入防止

【取組の成果及び評価】

- 継続的な対策実施の必要性を実感する契機となり、被害対策の充実につながることを期待される。
- 柵のエラー箇所等を共有することができ、効果的な補修の提案ができた。
- データを踏まえわなを設置した結果、これまで設置していなかった場所で3頭の捕獲につながった。
- GPS首輪を活用した調査では、移動経路や日中と夜間の行動範囲の違い等を把握することができた。

【今後の展望、取組の普及方針】

- 本取組内容を県内市町村を対象とした会議などで周知し、事業成果の普及を図ることとしている。
- 宮城県HPでは「野生鳥獣被害情報Webマップ」を公表しており、この取組を含めて、県下市町村において、GIS等のデータに基づく被害対策が浸透するよう、取り組んでいく。

参考URL : <https://imagicdesign.co.jp/choujyugai/index.php>

GIS等を活用したシカ対策強化の取組 ー宮城県ー

参考：GIS画面イメージ

侵入防止柵	農地利用
— 電気柵	■ 田
— ネット柵	■ 畑
— WN柵	■ 休耕地
— その他	■ 耕作放棄地
● 柵エラー地点	■ 改変地
	■ その他

※ 農地の利用状況、対策を可視化し、地域全域の状況を俯瞰的に把握し、計画立案や不全箇所抽出に活用。

